

# オリーブの会通信

2024年3月20日第40号 (通巻46号)  
 オリーブの会  
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453  
 tel/fax:072-737-9454  
 mail: oribunokai@gmail.com  
 facebook: oribunokai

## مجموعة الزيتون

### 自治政府首相の交代の意味



#### ファタハと自治政府の本音を示す行動が表れた。

5月15日のファタハの声明で、ガザの再占領をもたらしたのとして、ハマスを非難した。こうした立場は、パレスチナ内では支持されることはないだろう。この声明の背景には、ハマスの一掃のあとに、パレスチナ自治政府に支配させるという米国の意図が働いている。この声明はファタハの軍事組織、アルアクサ殉教者旅団からも批判されている。この声明を何の価値もない毒入りの声明とし、「アメリカ・シオニストの命令に基づいて設立された政府を完全に拒否することを確認する」と。

3月15日、アッバース大統領は、自治政府のシュタイエ政府の辞任と新たな首相にムハンマド・ムスタファ氏を指名した。これに対して、ハマスのパレスチナイスラム聖戦、パレスチナ解放人民戦線、民族イニシアチブグループは共同声明を発表し、ある首相を「同じ政治環境の」別の首相に交代させることの実現可能性に疑問を呈した。ファタハの声明はこれに対し出されたものである。

先に、モスクワでのパレスチナのすべての党派による民族統一の試みを無視し、パレスチナに分裂をもたらし、シオニストと米国に手を貸すものである。

現在もパレスチナの世論は10月7日の攻撃を支持しており、自治政府を支持してはいない。自治政府は、その治安部隊をパレスチナ民衆を守るために使ったことはなく、パレスチナ人の弾圧にのみ使っている。ファタハを使ってハマスを非難することは、シオニスト・米国の立場にたつことの表明である。その声明の中で、「ハマスはイランの指示のもとに動いている」とまでいい、そこまでシオニスト・米国の立場にたっていることを示している。そこに抵抗闘争を闘ってきたパレスチナ民衆の立場はない。

自治政府の動きは、米国、欧州のガザのその後に改革された自治政府が支配するというものに沿ったものであり、パレスチナ全土のイスラエルの安全を保障する政府をつくることである。シュタイエ政権は、この線に沿って、辞職し、新たなムハンマド・ムスタファという政治色の薄い、金融の専門家を据えることで、改革した自治政府としようとしている。欧米からは歓迎されている。自治政府、ファタハは、この機会を使って、ガザへの支配を実現しようとしている。

その先に待っているのは、ネタニヤフも拒否する2国解

## オリープの会通信 第40号(通巻46号)

決であり、これも、イスラエルが認めるのは、現在の自治政府のようにイスラエルの安全のためはたらく政権である。しかし、ネタニヤフは、それも拒否し、ガザを直接占領下に置くとしている。そして、自治政府のおひざ下の西岸では、占領軍、入植者によるパレスチナ人の虐殺、追放、土地の収奪、併合への動きが強まっている。ネタニヤフ政権は、米欧の批判を受けても、ラファへの攻撃を行うことを目指し、ガザの人道援助を許さない姿勢を崩していない。米国は、陸路での人道援助の搬入をもとめるのではなく、空路と海路という、イスラエルとの対峙を避ける方法をとった。

だれが考えても、イスラエルが陸路で閉鎖を解けば、大量の援助物資が搬入されて、飢餓の危機にあるガザの人々を救うことができる。空路は、すで、死者が出ているように危険で、大した量の物資も運べないし、海路は港をつくるのに、2か月かかると言っている。本気でガザの人道危機を救おうとはしていない。また、この海路案はイスラエルが最初に提案したといわれる。これは、援助へのエジプトの関与をなくし、同時にパレスチナ人を海路で移送する可能性まで言われている。米国は、イスラエルのガザへの侵攻を全面的に支持しており、度重なる国連安保理で停戦案に拒否権を行使してきた。

### 米国の立場の変化

米国はイスラエルのラファ攻撃に反対したり、人道援助を言い出して来たりしているが、同時にイスラエルの軍事作戦には反対していない。これは、11月の米国の大統領選挙に向けて、若者を中心にバイデンのイスラエルに対する態度への批判が強まり、また、予備選挙でも、アラブ系の市民を中心にボイコットが行われ、共和党のトランプ元大統領の勢いもあり、選挙に向けて、パレスチナへの人道的な態度を示すと同時に旧来のイスラエルロビーに向けては、イスラエルのハマース掃討のための戦争に反対していないことを示している。また、最終的には2国家解決しかないと言いながら、2国家解決を否定しているネタニヤフの立場を変えさせることはできない。米国も、イスラエルと同様にイスラエルの安全保障が第一であり、これまでの自治政府と同様にイスラエルの安全を保障するものでなければならない。これも、パレスチナの民衆にとって、イスラエルの直接支配と同様に受け入れがたいものである。

自治政府が、米国にいくら媚びをうろうと、オスロで示された道しか許されないことは明確であり、それはパレスチナに民族の自決も、独立ももたらさない。

一方イスラエルは、なんら軍事目標を達成できていない。ハマスを壊滅もできていないし、捕虜の解放も勝ち

取れていない。行っていることは、ガザの人々への虐殺だけである。5か月もたっても、軍事的な目標を実現できていないことに、イスラエル国内でのネタニヤフの退陣、停戦を求める声が強まっている。捕虜の家族にとっては停戦をしないということは、捕虜の命が失われることを意味し、耐えることができない。また、それはネタニヤフの退陣と総選挙を求める声となっている

### 停戦交渉の行方

10月以来、停戦交渉は成立しなかった。それは、あくまでハマースの掃討を目指すイスラエルと捕虜交換で有利な条件を求めるハマースの合意の成立が難しいためである。ネタニヤフは、軍事的な圧力を強化すれば、捕虜の解放も、ハマースを掃討できるとしてきたが、5か月経っても、ハマースなどのパレスチナ抵抗運動の抵抗は続いており、捕虜の解放も実現していない。国内から停戦と交渉をもとめる世論が強まるなかで、イスラエルも交渉に応じることを余儀なくされた。

また、停戦に反対してきた米国も一時的な停戦を言い出すようになってきている。これは、イスラエルの封鎖と無差別攻撃で3万人以上が虐殺され、国際的にも批判が高まってきたことである。

しかし、最終的な停戦とイスラエル軍のガザから撤退を求めるハマースと一時的な停戦しか認めないイスラエルの間で大きな違いがあり、簡単に停戦が決まることはないだろう。しかも、戦争を終わらせると政治生命を失うネタニヤフは、停戦を望んでいない。ネタニヤフは繰り返し、イスラエルの代表が交渉にもどるのを止めていた。

ガザの人道状況を改善するためにも、即時の停戦が必要である。イスラエルは、人道的な支援を妨害し、援助も止めるガザの人々を殺害している。このような状況をやめさせるためには、停戦を実現することです。国際的な圧力だけでなく、イスラエル内の人々の声が高まっている。

自治政府は、このような時に形だけの改革を示し、ガザの戦後の支配をねらうことは、パレスチナの人々に支持されることはないだろう。必要なことは孤立するイスラエルを追い詰めることであり、それによって極右ネタニヤフ政権を倒すことである。



## 「現実からの乖離」ーパレスチナ諸勢力が自治政府を非難 新政権の発表で

パレスチナ自治政府のマフムード・アッバス大統領は、ムハンマド・ムスタファを首相に任命した。（写真：Wafa 通信より）

2024年3月15日 ブログ, ニュース

パレスチナ・クロニクル・スタッフより

いくつかのパレスチナ抵抗組織は、金曜日のパレスチナ大統領マフムード・アッバスの新政府発表を非難し、この動きが国家をさらに分断することを恐れた。

ハマス、パレスチナイスラム聖戦、パレスチナ解放人民戦線、民族イニシアチブグループは共同声明を発表し、ある首相を「同じ政治環境の」別の首相に交代させることの実現可能性に疑問を呈した。

声明は「個人の決定を下したり、国民の合意なしに新政府を樹立するといった表面的で空虚な措置を講じることは、単独主義の政策を強化し、分断をさらに悪化させるだけだ」と述べた。

木曜日、アッバス首相はムハンマド・ムスタファ氏を首相に任命し、新政府の樹立を要請した。

ムスタファ氏は、ガザでのイスラエルによる虐殺戦争に関連した展開を考慮して2月に辞任したムハンマド・シュタイエ氏の後任となる。

ムスタファ氏はアッバス氏のファタハ運動のメンバー

ではないが、パレスチナ解放機構の執行委員会のメンバーである。

声明はファタハ運動に対し、パレスチナの民族的大義にかなうもの、そして土地と聖域を解放したいという人々の願望を満たすものに従って現段階を管理するためにパレスチナの諸団体と協力するよう求めた。

「我が国の国民と国家の大義が危機に瀕している歴史的瞬間に、個人で決定を下したり、国民的合意なしに新政府を樹立するなど形式的で中身のない措置を講じることは、単独主義政策の強化であり、分断を深めることになる。最も必要としているのは合意と団結、そして統一民族指導部の形成であり、パレスチナ人民のすべての構成員が参加する自由民主選挙の準備をしている」と声明は述べ、さらに次のように付け加えた。

「これらの措置は、(パレスチナ)当局の指導部の危機の深さ、現実からの遊離、そして政府と国民、彼らの懸念、願望との間に大きな隔たりがあることを示しており、これらの政策や方向性に対する信頼の喪失を表明した大多数の意見によって確認されている」

### ガザ虐殺

現在、パレスチナ人に対する虐殺の罪で国際司法裁判所で裁判中であるが、イスラエルは10月7日以来、ガザで壊滅的な戦争を行っている。



ガザ保健省によると、10月7日から続くイスラエルによるガザ虐殺で、パレスチナ人3万1,490人が死亡、7万3,439人が負傷した。

さらに、ストリップ全域で少なくとも7,000人が行方不明で、家の瓦礫の下敷きになって死亡していると推定されている。

パレスチナおよび国際機関は、死傷者の大半は女性と子供だとしている。

イスラエルの侵略はまた、ガザ地区全域から200万人近くの強制退去をもたらし、避難民の大多数はエジプトとの国境に近い人口密集地帯の南部都市ラファに強制移住させられており、ここはパレスチナ最大となっている。1948年のナクバ以来の大量脱出である。

イスラエルは、10月7日のアル・アクサ洪水作戦で1,200人の兵士と民間人が死亡したと発表した。イスラエルのメディアは、その日多くのイスラエル人が「同士討ち」によって死亡したことを示唆する報道を掲載した。



## 「アル・アクサ殉教者旅団」激怒 – ファタハの声明を非難

2024年3月16日 ブログ, ニュース

パレスチナ・クロニクル・スタッフより

ファタハの声明は、ガザでのイスラエルによる虐殺を政治的に隠れ蓑にするものとして、多くのパレスチナ人団体、知識人、学者によって強く拒否された。ラマラのパレスチナ自治政府を支配していたパレスチナ組織ファタハは、パレスチナ抵抗運動ハマスやその他のパレスチナ団体による以前の声明を遺憾に思い、衝撃を表明したと伝えられている。

パレスチナ諸団体は金曜日、国民的合意なしに新政府を樹立するというパレスチナ自治政府のマフムード・

アッバース大統領の決定を非難し、その決定を「独占政策の強化と分断の深化」と表現した。

この危機は、アッバース首相が木曜日にムハンマド・シュタイエ政権の辞任を受け入れるという決定を下した後に始まった。シュタイエ氏はこの決定について、「次の段階とその課題には、ガザの新たな現実を考慮した新たな政府および政治的取り決めが必要である」と説明した。

当時、政府の辞任は、パレスチナ自治政府のガザ返還の前提条件としてパレスチナの「改革」を促してきた米国とその同盟国の要請によって行われたものと理解されていた。

しかし、一部のパレスチナ人は、新政府が名目上であっ

てもパレスチナ人のある程度の合意と団結を反映できることを期待していた。しかし、これは当てはまらなかった。自治政府の新政府は、アッバスの指導の下での以前のすべての政府に対するファタハの支配を再現したものであるかのように見えた。

予想通り、パレスチナ団体はこの決定を激しく非難し、アッバス首相が「個人の決定を下し、国民の合意なしに新政府を樹立するなど表面的で空虚な措置をとった」と非難した。

ファタハはすぐに反応したが、政府の問題に焦点を当てるのではなく、ガザ地区でのイスラエル人虐殺の最終的な責任はガザのパレスチナ抵抗勢力にあると非難した。

声明は、ハマスが「10月7日の冒険を引き受ける」ことで「イスラエルによるガザ占領の復活を引き起こした」と述べた。

声明によれば、これは「1948年よりもさらに恐ろしく残酷な大惨事」を引き起こし、シオニストによって歴史的なパレスチナの土地から80万人近くのパレスチナ人が追放されたことを指している。

ファタハは「現実とパレスチナ人民との真の乖離はハマスの指導部にある」と述べ、ハマスがイスラエルへの攻撃を開始する前に他のパレスチナ指導者らに「相談」しなかったと非難した。

ファタハ、あるいはアッバス大統領の宗教問題・イスラム関係担当顧問マフムード・アル・ハバシュなどファ

タハの著名な指導者が、ガザでの虐殺の責任はイスラエルではなくハマスにあると非難したのはこれが初めてではない。

ファタハの声明は、飢餓を引き起こし10万人を優に超えるパレスチナ人を死傷させたガザでのイスラエルによる大量虐殺を政治的に隠れ蓑にするものであるため、多くのパレスチナ団体、知識人、学者によって強く拒否された。

批判的な声の一部はファタハそのもの、つまりガザ地区だけでなくヨルダン川西岸北部でも武装抵抗活動に直接関与しているファタハ運動の軍事部門であるアルアクサ殉教者旅団から発せられた。

アル・アクサ殉教者旅団は声明で、「今日、われわれは、われわれの偉大な運動であるファタハとその決断を特別視し、何の価値もない毒の入った声明を書くグループに直面している」とアル・アクサ殉教者旅団は声明で述べた。

「我々は、パレスチナ人民の意思に反して、その息子たちを専制的に支配する（自治政府）本部の老いぼれた代理人から正統性を得ている、アメリカとシオニストの独裁の下で形成されたいかなる政府も、全面的に拒否することを確認する」と声明は付け加えた。

「土地を解放し、あらゆる手段を使って捕虜の解放に向けて努力するレジスタンスの活動は、すべてのパレスチナ人に保証された権利である」と結論付けた。



公開日：2024/03/15（最終更新日：2024/03/16 11:35）

ラマラーマアン-パレスチナ民族解放運動「ファタハ」は、イスラエルによるガザ地区再占領を引き起こした者、特にガザ地区でパレスチナ人民が経験しているナクバを引き起こした者には国家権力を決定する権利はないと断言した。現実とパレスチナ人民から真に切り離されてい

るのはハマス運動の指導者たちであり、ハマス運動はこの瞬間までガザ地区とパレスチナで抑圧されている人々が経験している大惨事の大きさを感じていないことを強調した。

ファタハは、ハマスの単独主義と分断についての話



## オリーブの会通信 第40号(通巻46号)

驚きと不支持を表明し、次のように尋ねた。「ハマスは、大惨事につながった昨年10月7日の冒険を実行する決定を下した際、パレスチナ指導部やパレスチナのどこかの政党と相談したのだろうか」1948年の大惨事よりも恐ろしく残酷だろうか？」ハマスは現在イスラエルと交渉しており、譲歩に次ぐ譲歩を提示しており、その唯一の目標は、指導部が身の安全の保証を受け、ガザとガザにおける分断をもたらす役割を維持するためにネタニヤフ首相と再び合意に達するよう努めることであるとしている。問題は、ハマスが国家の正統性に対して闇のクーデターを実行した際、誰かに相談したかどうかである。パレスチナ自治政府は2007年、分断解消に向けたあらゆる取り組みを拒否した。

ファタハは、マフムード・アッバス大統領には基本法に従い、パレスチナ人民の利益となるあらゆることを行う権利があると確認し、ムハンマド・ムスタファ博士に対する大統領の任命が大統領の政治的・法的中心となることを強調した。責任を負うこと、そして課題設定された優先順位はパレスチナ人の優先順位であり、すべての正気の人が切り離されることはない。彼の人々について、そしてガザ地区で大きな不当行為にさらされている私たちの人々が経験した恐ろしい悲劇の現実について。彼らはこれを認識しており、今日のすべてのパレスチナ人の優先事項は、戦争を即時停止し、避難民を阻止し、苦境にある人々に救済を提供し、ガザ地区を再建し、分断を終わらせ、パレスチナ祖国を再統一することであると強調し、それはハマスが示

しているとおりでである。今日の彼らの声明では、それは彼らの優先事項ではありません。

ファタハは、首相に指名されたムハンマド・ムスタファ博士が、パレスチナ人民に災難だけをもたらし、何の成果も達成していない偽りの議題ではなく、国家的議題で武装していることを確認した。ファタハは「ハマスは我々がイランから首相を任命することを望んでいるのか、それともイランが我々に代わって首相を任命することを望んでいるのか？」と尋ねた。

ファタハは、ハマス指導部の行動と実践、そして虐殺戦争に対するその行動を批判し、「この指導部が七つ星ホテルで暮らす快適な生活が正しいことを盲目にしているようで、なぜハマスのほとんどの行動が疑問に思っているのだろうか」と指摘した。指導者たちは海外に住んでおり、なぜ指導者とその家族はパレスチナ人を見捨てて逃亡したのか。彼は何の保護もなく残忍な殲滅戦争に直面している。」

ファタハはハマス運動の指導者に対し、「戦争を止め、国民と大義を清算から救い、国民を救済するために、外国の目的に依存する政策をやめ、民族の側に戻るよう呼び掛けた」私たちの人々はガザを再建し、エルサレムを首都とするパレスチナ国家の土地からのイスラエルの完全な撤退につながります。」  
(マアン通信社のニュースより)



タマラ・ナッサー

2024年3月14日

ガザへの人道支援物資を積んだボートが3月12日、キプロスのラルナカ港から出発した。ジョージ・クリストフォロウ新華社通信  
ジョー・バイデン米大統領が沿岸飛び地への海上回廊計

画を発表したことを受け、火曜日、救援船はキプロスからガザ地区へ出航した。

この船には約200トンの食料、水、医薬品が積まれている。

アラブ首長国連邦は、米国に本拠を置く慈善団体ワールド・セントラル・キッチンが主催するこのミッションに資金を提供している。この船は、Proactive Open Arms という名前のスペインの組織によって供給されています。

船とそれに随伴するはしけは最長2日以内にガザ北部の海岸に到着し、スペインの慈善団体が建設した棧橋に停泊する予定だ。

バイデン氏は、ガザと世界の他の地域との間に海上援助回廊を確立するため、ガザの地中海沿岸沖に「暫定棧橋」を建設する計画を発表していた。

バイデン氏は一般教書演説で、「今夜、私は米軍に対し、地中海のガザ沿岸に食料、水、医薬品、一時避難所を積んだ大型貨物を受け入れることができる臨時棧橋を設置する緊急任務を指示する」と述べた。

「暫定的な棧橋があれば、毎日ガザに流入する人道支援の量を大幅に増やすことが可能になる」とバイデン氏は付け加えた。

当局者らは建設に30日から60日かかると述べた「暫定的な」港は、ガザ海岸の暫定的な土手道に取り付けられる予定だという。

米国は3月9日、棧橋建設のための機材を積んだ最初の物流船を派遣した。

イスラエルによるガザでのパレスチナ人虐殺を一貫して支持してきた国々、あるいは停戦を呼びかけなかった国々も「海上回廊」計画に参加している。

欧州連合、ドイツ、ギリシャ、イタリア、オランダ、キプロス、アラブ首長国連邦、英国、米国がさまざまな立場でこのプロジェクトを支援しています。

飢餓を作り出したものが計画を支持

「アマルテア・イニシアチブ」では、船がガザ海岸に向けて航行する前にイスラエルがキプロスでの物品検査に参加することになる。

そしてバイデン氏は、イスラエル軍が港の「安全」を管理すると述べた。

「ガザ支援のために建設予定の港の警備は誰がするの

ですか？」 港湾計画のニュースが流れたとき、記者がバイデンに尋ねた。

「イスラエル人だ」と米国大統領は答えた。

エルサレム・ポスト紙は、匿名の「上級外交筋」の話として、海上回廊計画はベンヤミン・ネタニヤフ首相のアイデアだと報じた。

伝えられるところによると、ネタニヤフ首相は10月に初めてこの計画をバイデン氏に提案し、1月に再びこの問題を米大統領に迫ったとされる。

「首相に近いこの情報筋は、バイデンはネタニヤフ首相の計画を実行しているだけで、実際には何か新しいことを始めているわけではないとほのめかした」とポスト紙は報じた。

日曜日、海軍艦艇でガザ海岸を視察中、イスラエル国防大臣ヨアヴ・ギャラントは海上回廊の計画について熱意を表明した。

「このプロセスは、住民に直接援助を届けることで、ガザにおけるハマスの支配の崩壊を継続することを目的としている」と同氏は述べた。

ギャラント氏は日曜、イスラエル海軍司令官およびイスラエルの軍事占領官僚部門であるCOGATのトップとともに、港建設の兵站について説明を受けたと伝えられている。

ガザでのイスラエルによる大量虐殺の3日目に、イスラエルが「[ガザ]を完全に包囲する」と発表したのも同じギャラントだった。電気も食料も水も燃料もなく、すべてが閉鎖されています。」

「私たちは動物人間と戦っており、それに応じて行動している」と同氏は当時、ガザの人口230万人のパレスチナ人について語り、その半数が子供で、その大部分がガザ境界線を越えた地域からの難民であると語った。

数日前、ギャラン氏は次のように述べた。「我々は、安全保障と人道面で米国と調整し、民間面でUAEの支援とキプロスでの適切な査察を受けながら、海上ルートを通じて援助を届けるつもりだ。米国の支援を受けて国際機関が輸入した商品をもたらすだろう。」

### 政治的動機

しかし、ガザ飢餓の首謀者であるイスラエルが、なぜ自らが引き起こし、現在悪化しつつある危機に対処するための援助のための海上回廊を確立するという考えを支持するのだろうか？

海上回廊の主な目的が援助を届けることであると仮定すると、これは逆説的に見えるかもしれません。

ガザのパレスチナ人は、計画されている港に関するニュースを恐怖と疑惑の目で受け止めた。

アナリストらは、これはガザ地区と世界の他の地域との間の出口としてのエジプトを排除し、唯一の地点であるエジプトが管理するラファ国境を経由して、沿岸飛び地のエジプトへの経済的・政治的依存を断つための策略ではないかと推測している。ガザのほとんどの人々にとって、出入り口の重要な役割を果たしています。

これにより、表向きはエジプトの協力に依存することなくイスラエルによるガザ地区の支配が完了することになるだろう。そうかもしれない。

ガザ生まれの世界的に有名なパレスチナ人ジャーナリスト、アブデル・バリ・アトワンは、これらの計画が何を示唆するのかについての洞察として、1982年に米国が支援したパレスチナ解放機構の数千人のパレスチナゲリラ戦士のベイルートからの避難を引き合いに出した。

パレスチナ戦闘員は米軍艦によってベイルート沖からキプロス、そして最終的にはチュニジアに移送された。

アトワン氏は、海上回廊によってパレスチナ人を海上から強制避難させる道が生まれると示唆した。

他のアナリストも同様の懸念を表明している。

アントニー・ブリンケン米 국무長官は水曜日の記者会見で、この措置によりラファの国境とケレム・シャローム商業交差点が永久に封鎖されるとの憶測を暗に否定した。

「そして強調したいのは、これはガザに人道支援を届ける他の方法を補完するものであり、代替ではないとい

うことだ」とブリンケン氏は語った。

「そして、特に陸路は、支援を必要とする人々に支援を届けるための最も重要な手段であり続けています。」

こうした保証は懸念を和らげるにはほとんど役に立たない。アメリカとイスラエルの管理下にある港がいつ整備された場合、テルアビブとアメリカ政府が何をするかは分からない。

### 「明らかな気晴らし」

食糧への権利に関する国連特別報告者のマイケル・ファクリ氏は、空挺投下であれ、臨時港であれ、ガザへの援助を獲得する米国の計画を「不合理」だと非難した。

「人道的観点、国際的観点、人権の観点から見ると、これは暗く皮肉な意味で不合理だ」と彼は述べた。

人権団体は、ガザにおけるパレスチナ人の飢餓に対するイスラエルの組織的かつ計画的な政策からの気をそらさせるものとして、仮設棧橋を建設するという発表を却下した。

パレスチナ難民擁護団体バディル氏は、「提案されている海上人道回廊と臨時港は、援助を兵器化するもう一つ的手段である」と述べた。

それは、「イスラエルの責任と義務を免除し、UNRWA（パレスチナ難民のための国連機関）を排除して置き換え、パレスチナ人のガザストリップからの強制移送のための潜在的なメカニズムを確立するというイスラエルの『翌日の計画』を支援する」ことを目的としている。

UNRWAのガザでの活動は、少数の国連難民高等弁務官事務所職員が10月7日の攻撃に関与していたという未確認の主張をイスラエルが行ったことを受けて、同機関の最大の資金提供者である米国を含む援助国が2月中に4億4,000万ドル相当の援助を停止したため、崩壊の危機に瀕している。

この機関はガザ内に援助を配布する上で重要な役割を果たしている。このことはスウェーデンやカナダなどの国でも認められており、両国とも過去数週間にUNRWAの活動への資金拠出を再開すると発表した。



25の慈善団体と人権団体は、「即時かつ恒久的な停戦」と「すべての陸路」の開放が最優先事項であるべきだとの声明を発表した。

「各国は、ガザ地区のニーズを支援するために十分な努力をしているという幻想を作り出すために、空挺投下や海上回廊の開通努力の背後に隠れることはできません。国家の主な責任は、残虐犯罪の展開を阻止し、容赦ない砲撃と攻撃を終わらせるために効果的な政治的圧力をかけることです。」人道支援物の安全な提供を妨げる制限がある」と団体は述べた。

署名者にはアムネスティ・インターナショナル、オックスファム、アクション・エイド・インターナショナル、アメリカン・フレンズ・サービス委員会が含まれる。

ガザ地区に暫定棧橋を建設する米国の計画は「イスラエルによる無差別かつ不均衡な軍事作戦と懲罰的な包囲という本当の問題から明らかに目を逸らしている」と国境なき医師団(MSF)は述べた。

同団体は「これは物流上の問題ではなく、政治的な問題だ」と付け加えた。

「ガザの人々が切実に必要としている食糧、水、医療品は、国境のすぐ向こう側に眠っている。」

衛星画像には、数千台の援助トラックがエジプトとの国境ラファで立ち往生していることが示されている。イスラエルがガザへの入国を許可せず、ワシントンがテルアビブにそう強制したり、ガザでの包囲を終わらせたりする巨大な影響力を行使することを拒否しているため、ガザに入ることができない。

臨時の棧橋の建設と空からの援助パッケージの投下は、地上での政治的現実を操作し確立することを目的とした政治的ジェスチャーである。

援助トラックが陸路でガザに入ることができない技術的な理由はない。これはガザに援助物資を届ける最も効率的で、費用対効果が高く、安全な方法です。

### エアドロップでキル

イスラエルはヨルダン空軍の支援を受けて、いくつかの国がガザ地区に援助物資を投下することを許可してきた。

この取り組みはイスラエル当局と完全に連携していません。

ヨルダン空軍は米国、ベルギー、フランス、英国と協力してガザ地区に援助物資を投下した。

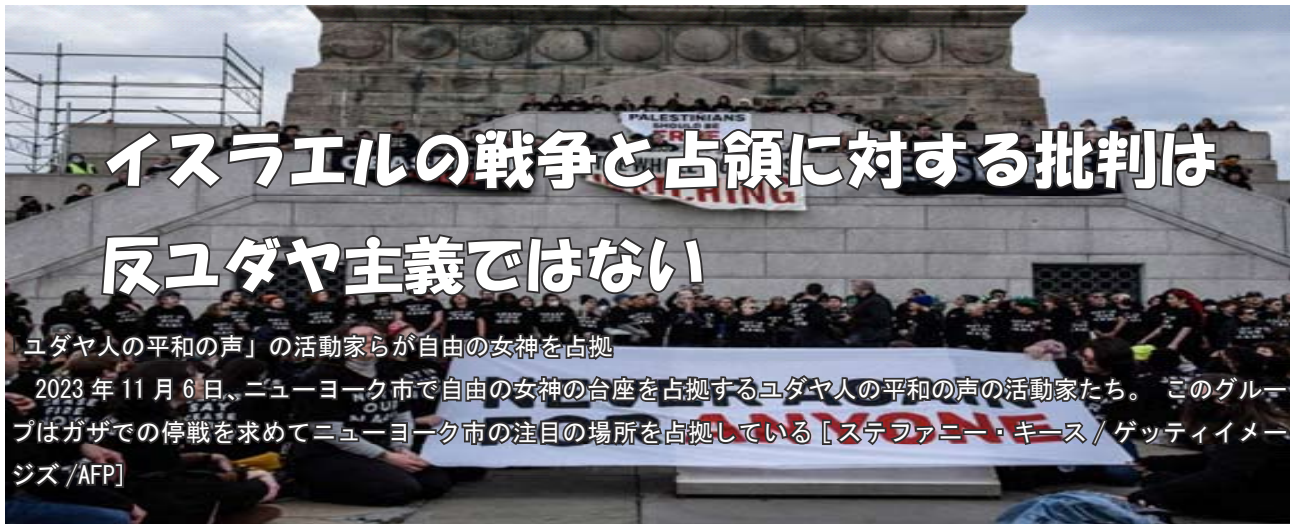
イスラエル軍は今月、これらの空中投下のうちの1つを調整する様子を示すビデオを公開した。

「イスラエルは世界数カ国と連絡を取り合っており、人道支援物資のパラシュート降下を監視・調整しながら可能にしている」とイスラエル軍は述べた。

パラシュートに取り付けられた援助パッケージの映像はソーシャルメディアで拡散し、ガザのパレスチナ人が空から投下された物資から可能な限りの物資を回収しようと急いでいる様子が映った。

この屈辱的な空中投下は、イスラエルとそのアメリカとヨーロッパの同盟国が、地域政権の共謀を得て、パレスチナ人に対して行っている組織的かつ意図的な飢餓作戦を終わらせるには何の役にも立たない人道支援活動に等しい。

先週、各国連合がガザ地区に投下した援助物資により、パレスチナ人5人が死亡、他の人が負傷した。(エレクトリック・インティファダより)



# イスラエルの戦争と占領に対する批判は 反ユダヤ主義ではない

ユダヤ人の平和の声」の活動家らが自由の女神を占拠

2023年11月6日、ニューヨーク市で自由の女神の台座を占拠するユダヤ人の平和の声の活動家たち。このグループはガザでの停戦を求めてニューヨーク市の注目の場所を占拠している【ステファニー・キース/ゲッティイメージズ/AFP】

マクシミリアン・ヘス  
外交政策研究所フェロー  
2024年3月13日発行

反ユダヤ主義は疫病である。10月7日にイスラエルで起きたハマスの恐ろしいテロ攻撃の余波を受け、私は、アメリカ系ユダヤ人とカトリック教徒のドイツ人夫婦の子どもとして、この憎しみに疑問を抱き、それにずっと向き合ってきたにもかかわらず、以前は受け入れようと思っていたよりもはるかに蔓延していることに気づいた。

反ユダヤ主義、その蔓延する性質、そしてドイツの記憶文化の中心にあるホロコーストに対する恥辱と罪悪感、私の人生を消し去ることのできない形で形作ってきました。

私の亡くなった祖母は、ヨーロッパのユダヤ人に対するドイツの犯罪を認識していたことを決して認めませんでした。私は彼女のことを信じていませんでしたが、それは問題ではありませんでした。私たちが訪問するときはいつも、彼女は私と兄弟たちに、彼女が晩年を過ごしたヴォルムス市にあるヨーロッパ最古のユダヤ人墓地を訪れるようにと主張しました。

両親は私が幼い頃に別居しましたが、母はよく、無神論者の父が敬虔な母を喜ばせたかったために、父が通っていた学校と同じカトリック教会で兄と私が洗礼を受けた話をしてくれました。大人になって初めて、私は父親から、実際にそう主張していたのはユダヤ人の母親であったことを知りました。50年も経たないうちに、ヨーロッパのユダヤ人たちはナチスから逃れるために偽の洗礼証明書を取得するために大金を費やしました。私の

母も、他の無数の人々と同様に、この古代の憎しみの復活が常に脅威として迫っていることをはっきりと知っていました。

しかし今日、世界はひっくり返ったように見える。ガザ地区におけるイスラエルの行動を反ユダヤ主義と混同して批判することを拒む人々によって、反ユダヤ主義の惨劇との闘いが脅かされているのだ。

このことを最も明確に示しているのは、今や悪名高いマイク・コリンズ下院議員による3月3日のツイートに対する反応である。その日、公然と反ユダヤ主義の極右アカウントが、米国が「盗まれた土地」の上に建設されているという皮肉な言及を含むワシントン・ポストの記事の著者がユダヤ人であることを示唆するツイートを投稿した。コリンズ氏は「何も考えもしなかった」とツイートして反応した。今日に至るまで、コリンズは謝罪を拒否しており、多くの批判者たちを「藁にもすがる」と非難さえした。

この事件により、コリンズ氏はジョージア州の9人からなる共和党議員団の中で、あからさまな反ユダヤ主義に関与し、それに対する謝罪を拒否した2人目の議員となった。

代表団のもう一人のメンバーであるマージョリー・テイラー・グリーン氏は、当選前の2018年にフェイスブックに投稿し、2018年のカリフォルニア州での山火事の背後に「ユダヤ人の宇宙レーザー」(彼女はその正確な用語を使ったことはないが)があるとほのめかしたことで悪名を高めていた。

共和党指導者らはコリンズ氏を批判することを拒否して

おり、ずっと前にグリーン氏を排除することから、彼女を党の指導的存在の一人として受け入れることに移行した。下院共和党議員で3番目に上位のエリーズ・ステファニクでさえ、ガザストリップでのイスラエルの行動を批判する抗議活動への対応をめぐってペンシルベニア大学 (UPenn) とハーバード大学の学長に質問したにもかかわらず、コリンズ氏とグリーン氏のどちらを叱責することも拒否した。最終的に彼らの辞任につながった。

ステファニク氏の沈黙は、グリーン氏と同様に彼女自身も「大いなる交代」陰謀論に手を出してきたという事実と関係があるのかもしれないが、後者の趣向には「シオニスト至上主義者」が正気の沙汰ではないという、非常識で根深い反ユダヤ主義的な主張が含まれていたが、その背後には、西部に移民を大量に流入させるという想像上の陰謀があった。それにもかかわらず、グリーンは今日、自らを「親イスラエル」であると主張している。

よく知っているはずの多くの方が、こうした議論に同調してしまいました。ペンシルベニア大学とハーバード大学の学長の運命を巡る彼らの否かは、コリンズ氏のコメントやグリーン氏の熱狂的な表情よりもはるかに多くのメディアの注目を集めた。後者の理事の一人であるヘッジファンド投資家のビル・アックマンは、ハーバード大学の学長を引きずり下ろすために自分自身を公に改め、自分の母校であるハーバード大学の責任は重大であると警告した。ターは反ユダヤ主義になりつつあった。しかし、彼はコリンズとグリーンとの反ユダヤ主義に関しては沈黙を保っている。

これは政治生活だけでなく、社会全体の問題でもあります。はい、カニエ・ウェストは反ユダヤ主義的な発言を相次ぎ、2022年10月に10億ドル規模のアディダスとの契約を破棄しましたが、その後、同社はそれより10年近く前から、あまり公にはされていないものの、同様に問題となるコメントを認識していたことが明らかになりました。そして彼は依然としてベストセラーのワールドツアーヘッドライナーである。

イーロン・マスク氏も、昨年11月に「ユダヤ人コミュニティ」が「白人に対する弁証法的な憎悪」を推進しているという主張を公に支持したことによる影響に、ほんの一時的に対処しなければならなかった。自身のツイートは「愚かだった」というマスク氏の反応は、謝罪には程遠いものの、12日後、ほかならぬベンヤミン・ネタニヤフ首相によるイスラエル訪問を歓迎された。

最近、反ユダヤ主義と闘っていると主張する人々の多くは、反シオニズムと闘い、イスラエルに対するあらゆる批判を沈黙させることにしか興味がないように見える。

イスラエルの最も熱心な支持者の多くにとって、イスラエルの行動を批判する人々、さらには自らのユダヤ人としてのアイデンティティに批判の根幹をなす人々が議論に入る余地はない。これが最も明らかな場所はドイツである。ドイツでは、テルアビブの戦争経路に対する抗議で拘束された人々のうち、イスラエル人が多くを占めるドイツ系ユダヤ人が不釣り合いな割合を占めている。

確かに、10月7日と数十年にわたるヨルダン川西岸占領に対するイスラエルの理不尽な対応が判断を鈍らせ、シオニズム批判において反ユダヤ主義の一線を越えてしまった人もいる。そして、数多くの真の反ユダヤ主義者たちが、自らの目的を推進するためにパレスチナ防衛という時流に乗ってきた。

しかし、イスラエルに対するすべての批判、特にイスラエルがガザ地区でハマスに対して戦争を遂行する方法に対する批判は反ユダヤ主義ではなく、反ユダヤ主義をそのように扱うことは、この古代の惨劇によってもたらされる増大する脅威に対する緊急かつ重要な戦いを損なうことになる。

イスラエルの爆撃作戦とガザ地区の民族浄化は、最終的にはハマスの軍事指導者全員の死に至る可能性がある。ハマスは組織として消滅するかもしれない。しかし、どれも問題の解決にはなりません。ハマスは1980年代に結成され、ガザを統治したのは2007年になってからです。イスラエル人とパレスチナ人との間の暴力は、このグループの結成よりずっと前から存在していました。

多くの民間人を殺害するテロ攻撃、社会全体にトラウマを与える攻撃は、自然に復讐願望を生み出します。9/11の直後に成人したニューヨーカーとして、それは私もよくわかる感情です。しかし、その復讐願望もたらす破壊的で壊滅的な結果も私はよく知っています。サダム・フセインは自国民と地域全体の人々に計り知れない苦痛を与えた暴君であったが、9/11の米国への攻撃



## オリブの会通信 第40号(通巻46号)

には一切関与していなかった。それでも、ジョージ・W・ブッシュは、これらの攻撃後のアメリカ国民のトラウマと復讐願望を利用して、イラク侵攻に向けて国を進めた。その侵略とその結果としての占領は、何十万もの罪のない命を奪い、何世代にもわたってこの地域を荒廃させ、ISIL (ISIS) を誕生させました。

### 暴力は暴力を生みます。

「二度としない」とは、誰によっても、誰に対しても、二度としないという意味でなければなりません。この呼びかけがパレスチナ人に適用されないのであれば、他の人がこの呼びかけをユダヤ人に適用するという希望は現実的にはあり得ない。特に多くの反ユダヤ主義が親イスラエル / 親ユダヤ主義に適合しないという理由で無視されている時代には。パレスチナの二分法。反ユダヤ主義との戦いがイスラエルとの関係に依存している人々

# パレスチナ日誌

## 9月21日

- ・健康ジェニンで占領軍の銃弾により3人が殉職、30人が負傷
- ・アカバト・ジャブル・キャンプの襲撃で若者が死亡、負傷者、逮捕者が出た。
- ・数十人が窒息死。ガザ東部での平和行進に対する占領軍の弾圧で4発の銃弾を受ける
- ・アララムの町での衝突で子供が占領軍の銃弾により負傷した。
- ・占領軍、軍の検問所でカバティヤの若者を逮捕
- ・アル=アクサからの強制退去と渡航禁止 - エルサレム人クエイに対する決定
- ・ベイト・ウンマルでの対立による窒息
- ・イスラエル、ガザ国境での対立は続くとの見方
- ・ヨルダン川西岸地区での負傷者と逮捕者
- ・エルサレム人女性ナフィサ・クワイスの逮捕
- ・またしても占領軍がエルサレム北部とラマッラ西部の350ドノムを接收
- ・子供のカマイサは... ジェニンで彼女の存在を発見したため、特殊部隊に殺された。
- ・テルアビブで2本のナイフを所持していたとされるガザ出身の老人が逮捕された。
- ・ゴラン近郊でイスラエルのドローンが2人を暗殺
- ・負傷者1名 - ガザ東部国境で占領軍がデモ隊に発砲と催涙弾
- ・イスラエル人負傷 - 占領軍がエルサレムで青年を射殺

## 9月22日

- ・占領軍がシュアファット爆撃犯の家を襲撃
- ・占領軍によるナブルス襲撃での負傷者
- ・占領軍、アル=エイザリヤの市民を逮捕し、カメラの記録を押収
- ・ナブルス南部で入植者がオリブの苗を根こそぎ奪い、農業機械を破壊
- ・ジェニン占領軍は若者を逮捕し、農民を虐待した
- ・ヨルダン渓谷北部の入植者が土地をフェンスで囲む
- ・占領軍、ヘブロンで2人の若者を逮捕
- ・カフル・カドゥムの行進に対する占領軍の弾圧による負傷者数
- ・ヘブロン・キルヤト・アルバ近郊で作戦を開始
- ・ガザ東部での占領軍によるデモ弾圧の結果、市民7人が負傷した。

を含め、憎しみはあらゆる場所で、あらゆる形態で戦わなければなりません。

この記事で表明された見解は著者自身のものであり、必ずしもアルジャジーラの編集スタンスを反映するものではありません。

マクシミリアン・ヘス

外交政策研究所フェロー

マクシミリアン・ヘスは、外交政策研究所のフェローであり、ロンドンを拠点とする政治リスク・コンサルタントです。

- ・占領軍、アル・アクサ・モスクの中庭から若者を逮捕
- ・空爆と砲撃 - ガザ東部国境で数十人が負傷
- ・占領軍、フワラで青年を暴行
- ・ヘブロン南部で入植者が一家を襲撃、子供が負傷
- ・ジェニン西部で市民2人が占領軍の銃弾により負傷
- ・占領軍によるベイト・イクサ検問所襲撃で2人負傷
- ・占領軍、ジェニンの若者2人を検問所で逮捕
- ・占領軍、ナブルス東部のベイト・フリック検問所で若者5人を逮捕
- ・アル・カヌー占領軍が反抗的な若者を攻撃し、ガザの抵抗拠点を爆撃しているのは、われわれの同胞に対する侵略の延長だ。
- ・占領軍がレバノン軍車両に向けて音爆弾を発射

## 9月24日

- ・ニューヨークでネタニヤフ首相に対するデモが再燃
- ・アル・アクサ・モスク周辺でタルムードの儀式を行う入植者たち
- ・占領軍がサルフィット西部の農業用トラクターを没収
- ・カフル・カドゥムで対立、金属弾で2人負傷
- ・占領軍、ジェニン市出身の囚人の5度目の行政拘留を更新
- ・占領軍がヘブロン南部のカルマ村の市民を逮捕
- ・ネタニヤフ政権に反対する数万人のデモ
- ・ヌール・シャムス・キャンプへの攻撃で2人が占領軍の銃弾で死亡した。
- ・占領軍がビルジト大学を襲撃、学生7人を逮捕

## 9月25日

- ・サルフィット以西で21件の作業・建設中止通告が出される
- ・“ヨム・キプール” - 658人の入植者がアル・アクサを襲撃
- ・ヨルダン、過激派によるアル・アクサ・モスクへの侵害を非難
- ・ガザ地区東部での占領軍によるデモ弾圧で6人が負傷
- ・占領軍機がガザの2つのレジスタンス観測所を爆撃
- ・サウジ外務省占領軍の保護下にある過激派によるアル・アクサへの襲撃を非難する
- ・173人目年の初めから... タイベで若者が殺された
- ・ベイト・ハニナ占領軍は民家を襲撃し、そのメンバーに暴行を加え、2人の若者を逮捕した。
- ・国連入植者の暴力」によるヨルダン川西岸地区でのパレスチナ人避難の激化
- ・“ヨム・キプール”：アル・アクサへの侵害とエルサレム通りの閉鎖

- ・サウジアラビア国内初の原子力発電所を建設するつもりだ
- ・占領軍機がガザ東部の観測所を爆撃、国境付近でデモが再燃

## 9月26日

- ・アル・イサウイヤの町での対立
- ・警告を受けたイスラエルは、休暇期間中、警戒態勢を維持することを決定した。
- ・占領軍、エルサレム占領下のシルワンの町の若者を逮捕
- ・占領軍、エルサレムの青年を逮捕

## 9月27日

- ・ヘブライ人情報筋エリコ北部の入植者の車を狙った銃撃事件
- ・占領軍がエルサレムのシュアファト・キャンプを襲撃
- ・ガザ東部とラファで若者と占領軍が対立
- ・アル＝カーダーの町を占領
- ・占領軍特別部隊、デイシエ収容所の若者を逮捕
- ・ガザ地区東部での衝突で11人の市民が負傷し、占領軍は5つのレジスタンス観測所を爆撃した。
- ・イスラエルメディアパレスチナ人がガザとのフェンスを越え、軍の狙撃ポイントを焼いた。
- ・イスラエルメディアパレスチナ人がガザとのフェンスを越え、軍の狙撃ポイントを焼いた。
- ・逮捕 - 占領軍は武器製造用の旋盤を発見したと主張
- ・西サルフィット入植地拡張のため50ドノムをブルドーザーで破壊
- ・イスラエル当局、アル・アラキブを222回目の取り壊し
- ・イスラエル軍がバストラ地区のレパノン軍パトロール隊に発煙筒を撃ち込む
- ・サルフィット以西で12件の作業・建設中止通告が出される
- ・占領はそれを抑圧する... ガザ国境で14日連続のデモ再開

## 9月28日

- ・占領軍がバブ・アル・アムードに展開、少年5人を逮捕
- ・イスラエルの野党がベン・グビールの解任を要求
- ・占領軍、ダマスカス門地区の子ども10人を逮捕
- ・逮捕者 - ネタニヤフ首相官邸前デモと最高裁が「予防接種」法を検討
- ・占領軍、Kafr Al-Dikで250本のオリーブの苗木を破壊し、数十ダムをブルドーザーで破壊。
- ・入植者、サルフィット西部でオリーブの苗木35本を根こそぎ撤去
- ・ヨルダン川西岸地区での逮捕
- ・コンクリートの壁 - ガザ地区を取り囲む入植地を要塞化する占領軍
- ・ガザでのエスカレーションを防ぐための最高レベルでのコミュニケーション
- ・革命青年がガザ国境での抗議活動中止を発表
- ・若者逮捕 - ヤバドで占領軍と対立し負傷
- ・イスラエル軍、ガザ地区北部でパレスチナ人2人を逮捕

## 9月29日

- ・ Beit Un-Marでの衝突で若者2人が実弾で負傷
- ・占領軍、エリコ北部のアル・アウジャの若者3人を逮捕
- ・アルビレで市民1人が占領軍の銃弾により負傷し、もう1人が逮捕された。
- ・カランディーヤ・キャンプで若い男性が金属弾を目に受け負傷した。
- ・パレスチナ人に対して銃を振り回したベン・グヴィールに対する捜査を打ち切る。
- ・ Beit-Dajjanでの入植反対デモ行進に対する占領軍の弾圧による負傷者
- ・ハマス、ガザ北部でアル・アクサ支持の大規模デモを組織
- ・占領軍、毎週のイベントに参加していたデイル・イステイヤ市長とその弟を逮捕
- ・カフル・カドゥムのデモ行進が鎮圧された際、救急隊員と子どもを含む5人が占領軍の銃弾により負傷した。
- ・占領軍、アルビレで若者2人を負傷・逮捕

## 9月30日

- ・ラマツラで占領軍の銃弾に殉じる
- ・トゥルカラム南東のシュファ検問所で解放された囚人を逮捕する占領軍
- ・ジェニンジャルブーンでの窒息死事件とアルカの青年の逮捕
- ・エリコ西部の入植者襲撃で市民が負傷
- ・殉教者ルンマナの冥福を祈り、ラマツラとアル＝ビレ県全域にストライキが広がる
- ・エリコで若い男性が占領軍の銃弾により負傷した。
- ・旧市街でタルムードの儀式を行う入植者たち

## 10月1日

- ・ラマツラ近郊で占領軍と対立
- ・第39週デモネタニヤフ首相の“分断”政治を暴露するデモ隊
- ・ヨルダン川西岸での逮捕キャンペーンでの負傷者

## 10月2日

- ・9月中、アル・アクサへの襲撃が18回、アル・イブラヒミで祈りの呼びかけが60回阻止された。
- ・“反逆の若者たち”、ガザ東部でのデモ再開と拡大を発表
- ・占領軍、エリコ北部の市民を逮捕
- ・占領軍がトゥバスの若者を逮捕
- ・占領軍がエルサレム市民を逮捕
- ・ヨルダン川西岸地区での逮捕
- ・占領軍はデラスティヤで農業用トラクターを押収し、運転手を逮捕した。

## 10月3日

- ・ヤッタの東にある27の学校への教師と生徒の通学を妨害している。
- ・玉座の3日目に... アル・アクサ、アル・ブラク、旧エルサレムが破壊された
- ・イスラエル通信大臣がサウジアラビアに到着
- ・占領軍がガザ中心部の農地に向けてガス弾を発射
- ・ヨルダン川西岸での対立、負傷者、逮捕者

## 10月4日

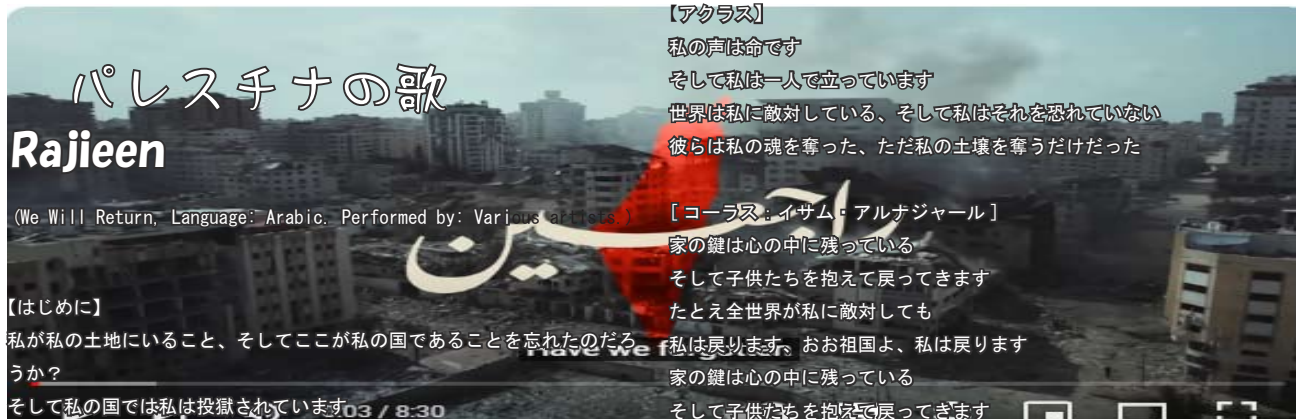
- ・玉座の日」4日目 - エルサレムは軍の兵舎となり、アル・アクサは冒涜される
- ・イスラエル特殊部隊がトゥルカラムの職場から青年を誘拐
- ・占領が3人の欧州外相のC地区訪問を阻む
- ・ナブルスの北西に位置するシレナイカで、占領軍による襲撃を受け、窒息死した。
- ・占領軍、トゥルカラム収容所の解放囚を逮捕
- ・ジェニン旅団、2件の銃乱射事件の犯行声明を発表
- ・エルサレムの教会に唾を吐きかける入植者たち

## 10月5日

- ・ヨルダン、アル・アクサでの違反行為についてイスラエルに抗議文を送付
- ・エルサレムでキリスト教徒観光客に唾を吐きかけた入植者5人を逮捕
- ・トゥルカラムの南、シュファ村で2人が占領軍の銃弾により殺害された。
- ・タルムードの儀式 - “玉座の日”6日目もアル・アクサ襲撃は続く
- ・トゥルカラムの衝突で兵士5人が負傷、3人が重傷
- ・エルサレム旧市街で2人の入植者がキリスト教巡礼者に唾を吐きかける
- ・832人の入植者がアル・アクサ・モスクを襲撃
- ・ヨルダン渓谷で土地を耕す入植者たち

## 10月6日

- ・入植者、ヤスフのオリーブの木40本を根こそぎ倒す
- ・占領軍、エルサレム旧市街の市民3人を逮捕
- ・占領軍、アルビレの両替店店長を逮捕
- ・占領軍がハワラを閉鎖、銃撃事件の犯人を捜索中とされる
- ・占領軍に包囲され、殉教したハワラ作戦の実行犯
- ・イスラエル特殊部隊がベツレヘムから3人の若者を誘拐
- ・イスラエルブルーラインを越えたレパノンのインフラ」の撤去
- ・イスラエル、ヨルダン川西岸とガザの閉鎖を決定
- ・サウジアラビア、アル・アクサ・モスク襲撃を非難



【はじめに】

私が私の土地にいること、そしてここが私の国であることを忘れたのだろうか？

そして私の国では私は投獄されています  
私の国では、私は投獄されています

【サイフ・サファディ】

そしてここで、私たちは殉教者の涙と血でその土を潤します  
殉教者の血

【ダナ・サラール】

ここに私たちの物語と勝利が書かれています  
私たちの国は川から海まで私たちのものです  
明日は良くなるだろうとよく言います  
でもいいえ、私たちが見たのは抑圧だけでした

【ガリア】

私たちが求めたのは生きる自由だけだった  
しかし、私たちが得た見返りは殺人と強制退去だけだった  
話し言葉すら許されない  
それは国境と拷問の刑務所です

【アフロト】

殺された子供はどんな罪を犯したのでしょうか？  
ささやかな未来だけを夢見た人は  
そして生き残ったもう一人の子供はどうなったのか  
しかし彼の家族は亡くなっている

あなたはおそらくそれも好きでしょう

靴のフィット感

ドレイク

あなたは私の心を壊した

ドレイク

赤いボタン

ドレイク

【ノルド】

私たちは自分たちに起こっていることを忘れていません  
私たちはあなたの土地にいます、私たちはあなたを見捨てていません  
そして私たちの殉教者の血は、私の祖国であるあなたへの犠牲です  
私たちは苦しみ、かつて私たちを慰めてくれた人たちは去ってしまいました

私たちの中に誰が残っているのでしょうか？

誓います、かつて私と一緒にいた人々がとても恋しいです

【シュルーフ】

毎日彼らは私の忍耐が私の武器だと言います  
そして私の忍耐は死とともに終わります  
そして誰もが見ていますが、いいえ、それは問題ではありません

【アクルス】

私の声は命です  
そして私は一人で立っています  
世界は私に敵対している、そして私はそれを恐れていない  
彼らは私の魂を奪った、ただ私の土壌を奪うだけだった

【コーラス：イサム・アルナジャー】

家の鍵は心の中に残っている  
そして子供たちを抱えて戻ってきます  
たとえ全世界が私に敵対しても  
私は戻ります、おお祖国よ、私は戻ります  
家の鍵は心の中に残っている  
そして子供たちを抱えて戻ってきます  
たとえ全世界が私に敵対しても  
私は戻ります、おお祖国よ、私は戻ります

【バルティ】

アラブの支配者はどこにいるのでしょうか？ リーダーたちはどこにいるのでしょうか？  
今日、ガザにいる私の兄弟姉妹は絶滅の対象となっています  
たった2つの言葉：「殉教」か「勝利」のどちらか  
パレスチナ人 - 生まれた時から死刑を宣告されている  
でも我慢してください、私たちに敵対するものは勝つことはできません  
アラブ諸国はどこにありますか？ 立ち上がる時が来た  
バルフォアの宣言が有効な場合、どうやって平和を宣言できるのでしょうか？  
それでも私の心は生きても死んでもパレスチナ人です

【アミール・イード】

全世界が私の国であり、私の土地はどこにでもあります  
昔から全世界が私の国です  
私たちの間の分断は国境です  
紙に書かれたただの言葉  
そして書かれたことは連鎖した  
私が祖国を見ることを拒否する

【ウェッサム・クトブ】

彼らは私たちを殺し、私たちを追放した  
そして今、私たちの手にある石は私たちの武器です  
黒と白のチェック柄  
私のクフィーヤは私の成功の秘訣です  
手には棺を運んでいる  
そしてその手には復讐が宿る  
家の鍵が首にぶら下がっている  
永遠で決して揺るがない

【コーラス：イサム・アルナジャー】

家の鍵は心の中に残っている  
そして子供たちを抱えて戻ってきます  
たとえ全世界が私に敵対しても  
私は戻ります、おお祖国よ、私は戻ります  
家の鍵は心の中に残っている  
そして子供たちを抱えて戻ってきます  
たとえ全世界が私に敵対しても  
私は戻ります、おお祖国よ、私は戻ります

(以下はh紙面の都合上割愛しています。曲はyoutubeでタイトルを検索してください)



# おいしいパレスチナ

## カターフ

カターフ：、またはカタエフは通常ラマダン中に作られる特別なデザートです。アタエフはシンプルだけど美味しいデザートです。

カターフとは何ですか？

カターフ (カタイフまたはカタイフとも綴られます) は、ラマダン月に一般的に消費される人気のある中東のデザートです。アタエフはパンケーキに非常に似ており、半円または三日月の形に折り畳むか密封する詰め物をしたペストリーに似ています。生地は小麦粉、イースト、砂糖、水から作られます。

片面を焼き上げた生地に、くるみやチーズなどの甘い詰め物を詰めます。密封した後、アタエフは黄金色になるまで焼くか揚げてから、砂糖シロップに浸します。

材料

バター用

カターフ生地の材料: 砂糖、イースト、中力粉、ファリーナ、水、ベーキング用バター。

ファリーナ - このレシピにとって重要な材料です。ファリーナは小麦クリームに似ています。中東のどの店でも見つけることができます。

小麦粉 - このレシピでは中力粉を使用します。

水 - イースト菌を活性化し、生地混合物を液体にするために、熱すぎず、冷たすぎないぬるま湯を必ず使用してください。

イースト

砂糖 - 酵母の活性化を助け、アタエフを甘くするためにシュガーシロップと一緒に使用されます。

バター - アタエフを焼く前に刷毛で塗ります。

詰め物用

詰め物の材料: オレンジの花の水。白チーズ; クルミ; シナモン; ナツメグと砂糖。

クルミ (みじん切り) - アタエフの詰め物用。

白い無塩チーズ - このレシピではアカウィチーズを使用し、冷水に一晩または4~5時間浸し、1時間ごとに水を交換して塩分を取り除きます。詰める前に水を切って水から絞ります。

シナモンとナツメグのパウダー - クルミと混ぜるとさらに風味が増します。

オレンジ ブロッサム ウォーターまたはローズ ウォーター - 私はチーズとシュガー シロップと一緒に使いま

す。カターフ全体の味に独特の風味を加えます。

シュガーシロップを作る

シュガーシロップ (アター) は数時間前か前日に作って、完全に冷めてすぐに使えるようにするのがベストです。必要なのは砂糖、水、そしてレモン汁の絞りだけです。ここで私の段階的な手順を確認してください。

生地作り

ブレンダーで混ぜ合わせた生地

ステップ 1 | ブレンダーにすべての材料を加え、滑らかな質感になるまでブレンドします。

休ませた後、ミキサーに生地を入れる

ステップ 2 | 生地をキッチンタオルまたはラップで覆い、30分~1時間ほど寝かせて発酵させます。

電気鉄板で調理するアタエフ。トップロー泡がたくさん出てもOK。

ステップ 3 | 生地が膨らんだら、テフロン加工のフライパンまたは電気グリルを予熱します。生地をよくかき混ぜてから、直径3~4インチになるように小さな円形の生地をフライパンに注ぎます。すぐに泡が立ち始めます。

カターフの上部は乾いているように見え、それが完了したことを示しています。

ステップ 4 | 泡が乾き始めたら、カターフは完成したという合図です。片面だけを焼きます。スパチュラ

でアタエフを取り出し、清潔なキッチンタオルの上に置きます。

カターフの充填

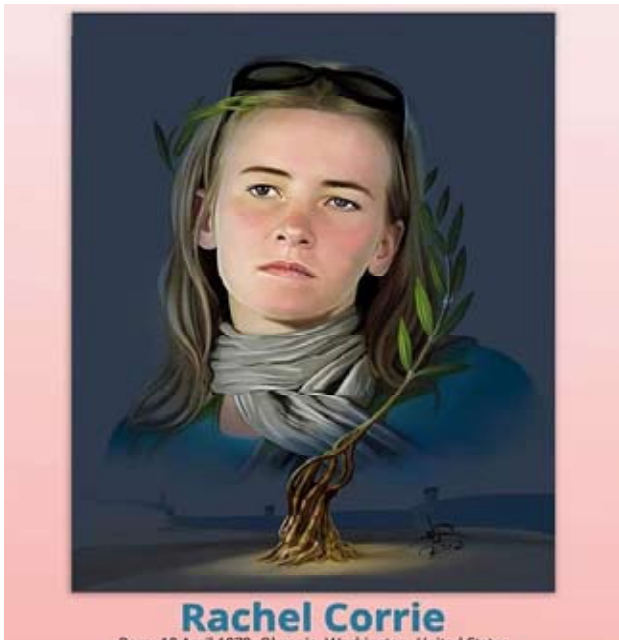
ステップ 6 | カターフを片手で持ち、指で片面をシールして詰め物用のポケットを作り、希望の詰め物オプションを詰めてから、すべての端を押して半円または三日月の形を作りシールします。

ステップ 7 | オーブンを 350° F (175° C) に予熱します。中身を詰めたアタエフをクッキングシートを敷いた天板に置き、各部分にバターをこすったり刷毛で塗ったりします。

ステップ 8 | 15~20分間、またはきつね色になるまで焼きます。

ステップ 9 | 焼いた直後、アタエフを熱いうちに砂糖シロップの入ったボウルに移し、完全に浸るまで浸します。その後、取り出して皿に置きます。ホットまたは温かいままお召し上がりください。





米国人のボランティアでイスラエルに 2003 年 3 月 16 日にガザで殺害された



空からの援助物資の投下、投下物のパラシュートが開かず下敷きとなり 5 人が死亡



3 月 16 日京都市での抗議デモ

## 今号の内容

- 自治政府首相の交代の意味・・・・・・・・・・1
- i『現実からの乖離』パレスチナ諸勢力の非難・・・・・・・・・・3
- ・「アルアクサ殉教者旅団」激怒・・・・・・・・・・4
- ファタハの声明・・・・・・・・・・10
- バイデンのガザ港建設本当の目的・・・・・・・・・・7
- 占領への批判は反ユダヤ主義ではない・・・・・・・・・・10
- パレスチナ日誌・・・・・・・・・・12
- パレスチナの愛した歌・・・・・・・・・・14
- おいしいパレスチナー・・・・・・・・・・15
- トピック・・・・・・・・・・16



ラマダンの最初の金曜礼拝、アル・アクサモスク周辺でイスラエルの規制で



3 月 16 日ロンドンの連帯デモ



3 月 14 日日本大使がパレスチナの内相と会談